

あしなが奨学生マイラの卒業



マイラは、去年10月で卒業に必要な単位を取得し、その後 PFP 事務所での研修予定が、妊娠しているという事実がわかり実施できなくなった。卒業後はブラクールに帰り、地域に役立ち、家族をも助けるという皆の期待が裏切られて

しまった。

2月末に女兒出産したとの報を受け、無事に出産したことには安心したが、私自身どのようにマイラに接したら良いかわからなかった。しかし、もう起こってしまったことは、元には戻らない。わだかまりなく卒業を祝福しようと決心した。

父親も出席してのグリーン・バレー・カレッジの卒業式。マイラは少しやせたように見えたが、ガウンと帽子に誇らしげだった。やはり一つの事を成し終えたということは評価したい。

卒業式に出席するためオートバイでブラクールへ向かっていると、マイラがとある家から出てきた。



夫の実家だそうだ。ブラクールの手前3km程の所である。夫と夫の両親と住んでおり、ハイスクールの同級生だったという夫とは仲む

つまじく、義理の母ともうまくやっていた。夫の父親はその地域の役員をしており、今すぐとはいかなくとも、地域への貢献が期待できるだろう。

(駐在スタッフ・相田)

* その他のあしなが奨学生現況 *

ロデル(文学部英文科3年次終了)

来年3月の卒業後は、教師不足のブラクールに戻り学校で教えたいと考えています。

HANDS 支援の果樹栽培やヤギ飼育などの自主財源事業は順調ですが、教師増員分を支えるまでに至っていません。卒業後は村のために、の理想実現はいずれも難しいようです。

エディ(地域開発コース1年次終了)

寮生活をしながらレイクセブ町の SCMSI カレッジで、先住民族の村に必要なコミュニティ運営、農林畜産・養殖の基礎、伝統的文化などを学んでいます。

カレッジ奨学生の条件

— シェルリン・ダラマをめぐって —

左ページでお伝えしたように、ミアソン寮の奨学生12名は4月3日に無事卒業式を終えて、それぞれ次のステップを踏み出しました。うち5名は5月の入学判定試験に備えて、ミンダナオ国立大学(MSU)入学準備クラス PUP で特訓中です。昨年9月の1次試験は全員不合格でした。今回パスすれば6月新学期からHANDS奨学生としてMSUに通うこととなります。



卒業の日に父親と

問題はシェルリン(写真)です。経済的困窮度・意欲・成績を条件に選ばれた5名の候補リストに、寮生中2番、学校でも6番で卒業したシェルリンの名はありませんでした。父親が非先住民族で経済力があるというのが

CMIPの説明でした。しかし、自力での進学は不可能のようです。

自身ビラーン人で、土地問題で役所の対応に苦慮していた前ディレクター・ファーディ神父は、州レベルの政府機関や病院などに勤めて、先住民族の力になってくれる人材を育てたいといっていました。1人育てることで、その家族だけでなく、貧しい仲間も恩恵に浴すなら、年500ドルの奨学金支援は意味ある投資です。そのような人材育成に「成績」は大切な要件です。看護師になりたいというシェルリンには、難関の看護コース入試合格を条件に奨学生に加えると伝えました。現在3校の受験に挑戦中です。(山崎)

* ジョジョの医療報告から *

ヘルメニアの手術準備が整いました

2月に3日間緊急入院したヘルメニアの病状は現在は落ち着き、国立心臓病センターの手術の順番を待っています。時間はかかりましたが先住民族・貧困証明手続きが完了し、手術費自己負担は15%位で済みそうです。

保健ボランティア研修に50名が参加

3月25-27日、ラボ研修所でカガペ医師を講師に第1回が行われ、予防と応急手当など基礎知識を学びました。充実した3日間で、早く村で教えたいと皆張り切っています。次回は6月です。